

令和4年12月 大槌町議会定例会

行政報告

令和4年12月2日

大 槌 町

本日、ここに令和4年12月大槌町議会定例会の開会にあたり、9月定例会以降における町政運営について、ご報告を申し上げます。

1 はじめに

はじめに、本年9月、文化交流施設並びに町立図書館の指定管理に係る次年度からの再指定の事務処理の中で、令和2年4月1日から指定管理制度を導入し、運営をしておりました町立図書館の設置条例に「指定管理者による管理等」を明記した条例の一部改正を行っていなかったことが判明いたしました。

条例改正の不備は、地方自治法及び条例違反であり、法令遵守を責務とする執行者として、真摯に反省するとともに、今回の事態を重く受け止めております。

本年度については、再発防止策の検討を進め、協定締結の有効性から、引き続き指定管理により運営することで考えております。

なお、地方自治法及び条例違反の期間の取扱いについては、今後、議会と協議してまいります。

2 大槌町職員の不祥事に係る第三者委員会の開催について

次に、大槌町職員の不祥事に係る第三者委員会の進捗状況について申し上げます。

去る11月17日、消防計画の未作成問題に係る第三者委員会の2回目を開催しました。委員により経緯の客観的資料の確認とヒアリング対象者の選定が行われました。

また、去る11月30日、条例、規則の公布の不備問題に係る第三者委員会の2回目を開催しました。委員から提出された資料について意見が交わされたほか、ヒアリング対象者の選定が行われました。

本事案について、行政運営を預かるものとして、職員として、組織として守るべき規範の基本中の基本である法令遵守が徹底されていない現状に、危機感を感じており、議会等を通じた町民への説明責任を果たし、町民の皆様の行政への信頼回復に向けた再発防止策をまとめる必要があると考えております。

現在進行している条例、規則の公布の不備問題に係る第三者委員会と消防計画の未作成問題に係る第三者委員会の進捗状況等については、適時に報告してまいります。

3 庁舎前の掲示板の移設について

次に、庁舎前の掲示板の移設について申し上げます。

条例、規則の公布の不備問題を受けて、先月、庁舎前の掲示板を現状よりも町民の目に触れ易く、広いスペースを確保するため、場所を町民室側へ移して新設しました。

なお、掲示板には、町産木材を使用し、掲示板制作にかかる費用の財源に森

林環境譲与税を活用しております。

4 「防火防災に関する」作文コンクール最優秀賞受賞について

次に、「防火防災に関する」作文コンクール最優秀賞受賞について申し上げます。

生活協同組合全日本消防人共済会が主催する第 22 回全国中学生「防火防災に関する」作文コンクールにおいて、吉里吉里学園 9 年生 東谷 柚月（あずまや ゆづき）さんが、各都道府県から選抜された作品の中から最優秀賞に選ばれました。

その作文には、普段は、優しく周りに笑顔を振りまく高齢の祖父が東日本大震災津波の時は消防団と共に懸命に地域を守ろうと奮闘する姿を見て、みんなで助け合うことの大切さを学んだとありました。祖父から受け継ぎ、地域の中で育まれた地域防災の意識の高さに強く感銘いたしました。

5 「吉里吉里地区教育振興運動推進協議会」秋の緑綬褒章の受章について

次に、「吉里吉里地区教育振興運動推進協議会」秋の緑綬褒章の受章について申し上げます。

昭和 40 年に始まった、家庭、学校、地域などがそれぞれの役割を果たしながら地域の教育課題の解決に自主的に取り組む教育振興運動において、昭和 43 年から 50 年以上にわたり毎年、吉里吉里海岸の清掃奉仕活動を実施してきた「吉

里吉里地区教育振興運動推進協議会」が、令和4年秋の緑綬褒章を受章されました。

途中、東日本大震災津波や新型コロナの影響により中断を余儀なくされたものの、地域の環境美化保全、環境意識の向上に貢献されたその功績は全国に誇れる活動であり、最大限の敬意を表するところであります。

6 新型コロナウイルス感染症の状況について

次に、新型コロナウイルス感染症の状況について申し上げます。

町内においては、収束の兆しのないまま10月中旬から徐々に感染者数が増加し始め、全国的にも第8波へ突入したものと認識される状況です。インフルエンザとの同時流行も危惧されることから、改めて基本的感染予防の徹底を呼びかけてまいります。

また、新型コロナワクチンの接種については、10月17日から12歳以上を対象としたオミクロン株対応ワクチンの接種を開始し、11月28日現在においては対象者の25.7%が接種を完了しており、全国の17.1%を上回る実績で推移しております。この状況を維持し、接種希望者が年内に接種できるよう勧めてまいります。

また、10月からは、5歳から11歳を対象とした3回目の追加接種と、新たに生後6か月から4歳を対象とした接種も開始しております。

町民の皆様におかれましては、度重なる追加接種をお願いすることになりま

すが、重症化リスクを低減させ、医療のひっ迫をできるだけ回避することにつながるものをご理解いただき、引き続きワクチンの接種をお願いします。

以下、各分野の取組についてご報告申し上げます。

7 各分野の取組について

【産業・観光】

(地場産業の拡大に向けて)

はじめに、地場産業の拡大について申し上げます。

今期7月までの岩手大槌サーモン水揚げ量は約350トンとなりました。次年度は海面養殖イケスが2基増設され、イケスの数は5基となり、来期の水揚げ目標666トンと更なる事業の拡大に期待しているところです。

また、淡水養殖の桃畑学園サーモンにつきましては、本年度約2,000匹、4tの出荷取引が好調なうちに終了しました。海面・淡水ともにサーモンの需要が増加しており、今後は、稚魚生産体制の強化を中心に民間事業者と一体となり進めてまいります。

ジビエ事業につきましては、産業の活性化を支援するため、本年度創設した地場産業拡大支援整備補助金等を活用し、来年の竣工に向け整備が進められております。処理頭数は、現状の約4倍となる1,000頭規模となり、被害対策や町のPRにおいても効果が見込まれております。

また、磯焼け対策においては、藻場の再生と並行して、漁業者を中心としたウニの蓄養が吉里吉里フィッシャリーナで予定されております。

去る11月19日、ショッピングセンターマストにおいて、大槌町産の酒米と源水地区の湧水を活用した地域おこし酒の純米吟醸「源水」のお披露目会を行いました。

今後も地場産業の拡大に向け、体制整備や付加価値向上に向け、町内一丸となった取組を進めてまいります。

(地域経済対策について)

次に、地域経済対策について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大に加え、ウクライナ危機や為替相場に起因する原油・物価高は地域経済に多大な影響を及ぼしています。

このような中、これまで町では、地域経済活性化のため、キャッシュレス決済によるポイント還元事業、地元応援券事業、宿泊業を対象とした「おおつち宿泊キャンペーン事業」、飲食業向けの「飲食店チャレンジ事業」を展開してきました。

これらに加え、昨今の急激なエネルギー・物価高騰によるコスト高を緩和することを目的とし、町内の貨物自動車運送事業を営む事業者に対し、対象車両1台あたり23,000円の運行支援緊急対策補助金を現在までのところ12社に約190万円助成しました。

このほか、昨年度に引き続き、復興需要の低迷による建設事業の底上げを図るため、大槌町住宅建設等促進事業補助金により、増改築工事等を実施する町民に対し補助を行う取組を実施し、抽選により 37 件、総事業費では、約 3,100 万円の町内建設需要を喚起しました。

また、商工業者に対しましては、大槌商工会を通して、岩手県が実施する「物価高騰対策支援金」に上乘せする形で「原油価格・物価高騰対策補助金」の申請受付を実施しているところであります。

引き続き、町内事業者の事業拡大と事業継続の取組を展開してまいります。

(海水浴場施設の整備について)

次に、海水浴場施設の整備について申し上げます。

吉里吉里海岸では来年夏の海水浴場施設供用開始に向けて工事を進行しているところであります。浪板海岸海水浴場と同様に、更衣室、トイレ、屋外シャワーを備える施設となります。

施設名については、吉里吉里学園の生徒の皆さんから提案をいただきましたので、施設開所の際、生徒の皆さんを招待し、発表させていただきたいと考えております。

(合宿等支援事業について)

次に、合宿等支援事業について申し上げます。

当町では、町内宿泊・民泊施設 13 施設で組織されている大槌町観光交流協会宿泊事業部会の要望を受けて、本年度も合宿・学習旅行誘致事業を実施しております。

昨年度は県内外の中学・高校運動部やスポーツ少年団など 15 団体 380 人泊を町内宿泊施設へ誘致することができました。

本年度は更に県内外の大学ゼミなどの誘致も含めて 14 団体 680 人泊を現段階で誘致しております。

引き続き、町内事業者と連携し、コロナ感染症拡大を予防しつつ、町内経済の活性化に取り組んでまいります。

(大槌町ネットワーク交流会について)

次に、大槌町ネットワーク交流会について申し上げます。

去る 11 月 11 日、東京都の銀座ライオン・クラシックホールにおいて「第 1 回大槌町ネットワーク交流会」を開催いたしました。

交流会には、ふるさと大槌会の役員の方、首都圏の自治体や企業・団体の関係者 70 名にお集まりいただき、これまでの支援への感謝を伝えるとともに、東日本大震災津波後、新たに取り組み始めた岩手大槌サーモンやジビエ事業等につきまして、私を始め関係者から現在までの状況や将来展望などについて報告させていただきました。

交流会では、大槌町オリジナルアニメ「大槌カイ物語」の動画放映、大槌虎

舞の演舞なども行い、町のPRを含め非常に有意義な交流の場となりました。

「大槌町ネットワーク交流会」は、首都圏との繋がりをより強固に、より拡大し、継続させることを目的に来年度以降も引き続き開催したいと考えております。

(地域活性化起業人の派遣について)

次に、地域活性化起業人の派遣について申し上げます。

去る9月30日、合同会社DMM.COMと合同会社EXNOA(エクスノア)と地域活性化起業人の派遣に関する協定を締結しました。当該制度は、都市部の民間企業の社員を一定期間受け入れ、そのノウハウや知見を活かしながら、地域独自の魅力や価値の向上等につながる業務に従事してもらうことで、地域活性化を図る取組であります。協定を締結した2社はグループ企業で、AIから農業まで幅広く事業展開しており、10月から観光交流協会など、地域の間支援を担う事業者の体制強化について取り組んでいます。

【健康・福祉】

(民生児童委員及び主任児童委員の委嘱について)

次に、民生児童委員及び主任児童委員の委嘱について申し上げます。

去る12月1日、民生児童委員及び主任児童委員の全国一斉改選があり、新任・再任をあわせて40名に委嘱状を交付いたしました。

町の民生委員等の定数に対し、現在の充足率が83%となっており、今後も引き続き欠員地区の新たな候補者の掘り起こしを行い、定員の充足に努めてまいります。

(おでんせカフェのオープンについて)

次に、おでんせカフェのオープンについて申し上げます。

当町においては、本年10月末現在、高齢化率39%と高齢化が顕著となっており、それに伴い、認知症を患った本人や家族、または認知症の罹患に不安を抱く高齢者が増加してきております。

こうしたなか、認知症当事者とその家族、地域の方が交流を通じて認知症という疾患を理解し、認知症を特別視せず、身近な日常にあるものとして受け入れていただく機会として、誰でも自由に参加できる「おでんせカフェ」が、10月から、大槌町文化交流センターおしゃっちにて毎月第1木曜日に開設されております。カフェには、医療・福祉・介護に携わる様々な専門職も参加し、認知症にまつわる相談にも対応できるようにしておりますので、少しでも多くの方々に、認知症に関する理解を深めていただき、認知症になっても安心して暮らせるまちとなるよう、幅広く周知を進めてまいります。

(大槌町敬老の集いについて)

次に、大槌町敬老の集いについて申し上げます。

例年、9月の敬老の日に合わせて実施しておりました大槌町敬老の集いについて、新型コロナウイルスの感染防止及び感染拡大の抑制を図るため、これまで事業の実施を控えてきたところでもあります。本年度においても、町内の福祉施設において集団感染が発生したことから開催は見送らせていただきました。

なお、次年度以降の開催につきましては、これまでの町全体での一堂に会する方法から、気軽に集まることができる地区ごとによる小規模な単位での開催方法への変更等とするべく、自治会等の意向も踏まえた、検討を進めてまいります。

【教育・文化】

(「ふるさと科」の学習について)

次に、「ふるさと科」の学習について申し上げます。

町立学校では、ふるさと科の授業の一つとして、命の大切さを見つめ、主体的に判断し行動することを学ぶ「防災教育を中心とした学び」を行っています。大槌学園では11月10日、今年で4回目となる避難所運営学習を、吉里吉里学園では11月12日、地域との合同避難訓練に合わせて今年で3回目となる避難所運営を実施しました。避難所運営にあたり、防災の基礎知識などの講義や避難所運営を生徒の皆さんと一緒に考えて考える授業を行い、当日は、地域住民や関係団体のご協力のもと、体育館内に避難してきた方を誘導し、状況に合わせた対応を生徒自らが考え、行動することができました。

これからも、防災教育における地域住民や関係団体との連携を進めてまいります。

(大槌高校魅力化事業の取組について)

次に、町と大槌高校が協働で行っている大槌高校魅力化事業の取組について申し上げます。

毎年実施している、三陸みらい探究「SIMulation おおつち 2030」において、議会議員の皆様から6つの地域課題のテーマをご提案いただき、去る10月11日、4名の議員に授業の中で生徒にご説明いただきました。

そのテーマの中から高校生が興味関心のあるものを選び、去る11月4日には、町職員へのヒアリングと、地域関係者の方々への現地訪問を行っています。地域課題探究として、地域が抱える課題や魅力に着目し、これからも地域と連携協働した実践的探究的な学びを推進してまいります。

また、大槌高校魅力化事業の取組の一つである「はま留学」については、オンラインによる合同説明会及びオープンスクールを開催し、現在、県外の中学校に通う男子2名、女子3名の計5名の生徒に、大槌高校を第1志望で受検する意思を確認しておりますことをご報告いたします。

(日本スポーツマスターズ2022岩手大会について)

次に、日本スポーツマスターズ2022岩手大会について申し上げます。

スポーツ愛好者の中で、競技志向の高いシニア世代を対象としたスポーツの祭典である日本スポーツマスターズ 2022 岩手大会の軟式野球競技が、去る9月24日、大槌町営野球場にて行われました。当日は、岡山県、北海道、神奈川県、茨城県、宮崎県、そして開催地岩手県の代表6チームが熱戦を繰り広げました。選手たちをおもてなしするために町では、入場口に歓迎アーチを設置し、郷土料理である「ひつつみ汁」をおふるまいし、来場者の皆様に喜んでいただくなど、供用開始後、初めての全国大会において関係人口の拡大に向けた町のPRになったものと考えております。

(町民文化祭の開催について)

次に、町民文化祭の開催について申し上げます。

新型コロナの影響により中止を余儀なくされていた町民文化祭が、去る11月3日から6日までの期間、3年ぶりに開催いたしました。

今回は、作品展示部門を文化交流センターおしゃっちで開催し、ステージ発表を城山公園体育館で行う、分散開催を初めて行いました。開催を待ちわびた町民の皆様から寄せられた多くの作品、ステージ発表に4日間で延べ約1,200人の皆様にご来場いただきました。

来年度は、第50回という節目の開催となり、町芸術文化協会とともに盛会に向けて準備を進めてまいります。

(思い出の品 返還相談会について)

次に、「思い出の品返還相談会」について申し上げます。

去る 11 月、東日本大震災津波で流出した写真など、所有者不明のまま保管している「思い出の品」の返還相談会を開催しました。町内のほか、当町からの移住者が多い遠野市、花巻市、盛岡市の 3 市で実施し、訪れた 133 人の方々に、「思い出の品」の一覧や写真をご確認いただき、355 点について返還することができました。

また私から、来場された皆様へ町の近況を報告し、思い出などを語り合う大変貴重な時間となり、皆様の大槌への想いが、当町の震災伝承事業理念の一つ「忘れない」へつながっていることを改めて強く感じたところであります。

写真等の思い出の品は、劣化等により本年度中に処分することになりますが、震災伝承につながる大切な取組の一つとして、今後は写真のデジタル化を進め、閲覧希望や問い合わせに即時に対応し、一人でも多くの方への返還が叶うよう努めてまいります。

((仮称) 鎮魂の森整備事業について)

次に、(仮称) 鎮魂の森整備事業の進捗状況について申し上げます。

現在、実施設計業務において、地質調査や測量調査、進入路や車いすの利用通路の再検討等を行い、工事費算定及び工事発注に必要な数量表や詳細図面の作成を進めております。

また、ご遺族に対し、(仮称)鎮魂の森に設置する芳名碑に刻銘するかどうかの意向確認調査を行い、9月末までに約85%の意向を確認しました。結果をもとに、11月下旬には、芳名碑の並び順についてご遺族にお知らせしたところです。

今後、実施設計の成果に基づき、設計内容や工事スケジュール等を町民の皆様にお示ししながら、東日本大震災津波で犠牲となられた方々への追悼と鎮魂の祈りをささげる場としてふさわしい空間となるよう、着実に整備を進めてまいります。

【安全・快適】

(災害に強いまちづくりの推進)

次に、災害に強いまちづくりの推進について申し上げます。

本年9月に全戸配布した「大槌町防災ハザードマップ」を活用して、避難行動のあり方や避難に際し留意すべき点などを町内各地区に出向いて説明会を実施いたしました。

説明会は、全18回にわたって開催をし、参加いただいた町民の人数は347名となりました。

また、町民の皆様から、防災全般についてさまざまなご意見をいただきました。いただいたご意見を基に地域と一緒にあって、今後もより一層大槌町の防災力の向上に努めてまいります。

また、本年9月末に開催された国の中央防災会議において、当町が「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震津波避難対策特別強化地域」に指定されることが決定されました。

これによって、津波対策に係る事業の国の補助金の補助率が2分の1から3分の2に嵩上げされることになりました。

今後は、事業認可に必要となる、津波避難計画の見直し、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進計画・津波避難対策緊急事業計画の作成に取り組み、命を守るために必要な津波避難施設の整備などの津波対策事業に取り組んでまいります。

本年9月に大槌高校復興研究会定点観測班が、防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞されました。定点観測の活動は、震災前の写真を収集し、2013年から年に3回、その写真の同じ場所・同じ角度・同じ範囲で写真を撮り続けているもので、この活動を10年にわたってその時々的高校生が見つないできたものであります。

また、活動の成果であるその移り変わりを表す写真そのものが大槌町の復興の貴重な記録となっています。これまでも、ぼうさい甲子園の優秀賞・奨励賞、総務省の防災まちづくり大賞総務大臣賞など、数々の賞を受賞してきましたが、この度、防災活動の最高の表彰ともいえる防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞したものであります。町としても定点観測の活動に同行し、高校生の活動をサポートし続けて来たこともあり、今回の受賞を大きな喜びをもって受け止めて

います。

今後も大槌高校復興研究会の活動の支えとなるとともに、この活動を多くの町民の皆様にも認識いただき、防災意識の向上に努めてまいります。

(環境審議会の開催について)

次に、環境基本計画策定に伴う環境審議会の開催について申し上げます。

去る9月30日、第1回目の審議会を開催し、環境基本計画の策定方針について合意をいただいたところであります。

なお、委員は、環境に関係する機関及び公募者から構成されております。

今後の計画進捗については、大槌町総合計画の改訂と同時期となることから、相互に連携し、効果的で実効性のある計画となるよう努めてまいります。

(大槌町乗合タクシー実証事業について)

次に、大槌町乗合タクシー実証運行事業について申し上げます。

本年4月から、大槌町乗合タクシー実証運行事業を開始しております。利用登録者数は、10月末時点で、149人、利用者数は、34人となっております。

また、更なる利便性の向上を図るため、今月1日から、午後2時30分発の帰り便を増便し、運行しております。

引き続き、町民の暮らしを支える、持続可能で効率的な公共交通体系の構築を目指し、事業者と共に取り組んでまいります。

【将来を見据えた持続可能なまちづくり】

(移住・定住促進用ホームページ「ココカラオオツチ」の開設について)

次に、移住・定住促進用ホームページ「ココカラオオツチ」の開設について申し上げます。

移住・定住の推進については、本年9月に移住・定住のホームページ「ココカラオオツチ」を開設しており、「知る」、「暮らす」、「生きる」、「働く」、「つながる」のコンテンツで移住者及び町民に対し情報を発信しております。今後もコンテンツをアップデートしていき、移住・定住の推進を図ってまいります。

(地域おこし協力隊について)

次に、地域おこし協力隊について申し上げます。

去る8月9日、本年6月以降に新たに着任した6名の辞令交付式を執り行いました。昨年の隊員と併せまして、合計19名が町内の事業者と共に地域産業の振興や課題解決に取り組んでおります。

引き続き、制度の周知と活用を推進し、移住・定住及び生業の課題解決に取り組んでまいります。

(空き地活用に向けた大学発ベンチャーとの連携について)

次に、空き地活用に向けた大学発ベンチャーとの連携について申し上げます。

復興庁の土地活用ハンズオン支援事業については、現在までにワークショップを3回開催し、延べ約70名の方に参加いただいております。

本事業は、空地活用に、町外からの大学発ベンチャー企業と町内事業者との協業等による利活用を来年2月まで計4回にわたりワークショップを開催しながら、調査研究し、実現可能性のある事業については、12月以降に実証実験などを行う予定としております。

引き続き、移住定住による活用も支援し、空地活用を図りつつ、産業面の活用など多角的に活用策を調査検討し、町の活性化による土地活用を図ってまいります。

以上、行政報告を申し述べましたが、本定例会では、条例の改正、補正予算案等をご提案申し上げます。

何卒よろしくご審議の上、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、行政報告といたします。